

松平周防守家居合師範羽方家の日常

1. 松平周防守家居合師範羽方家

羽方家は松平周防守家が石見国浜田に入国した寛文(1661～72)頃よりの臣である。主家の国替えに従い下総国古河、三河国岡崎、石見国浜田、陸奥国棚倉と移り住み、川越で明治維新を迎えた。石高は切米十石二人扶持。代々藩の居合師範を勤めてきた。

流儀は長野無楽斎の流れを汲む田宮流。子弟の錬成に努める羽方家の日常は、日々忙しい。

2. 居合刀の新調・修理を申請する。

羽方家に伝わった田宮流には、居合のほかにも組太刀も含まれていたようだ。刃を交える激しい稽古の中では居合刀が折れることもたびたびあった。

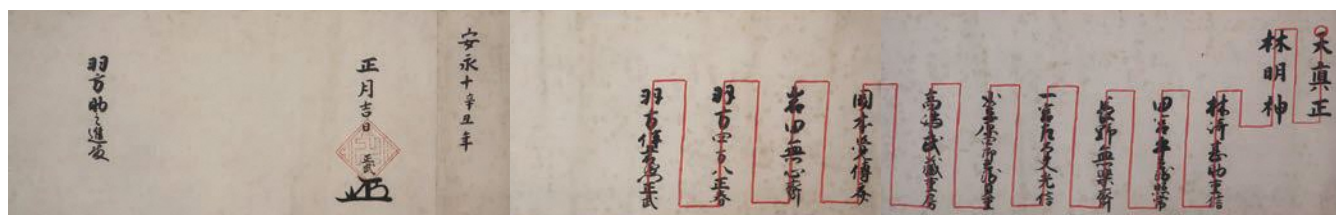
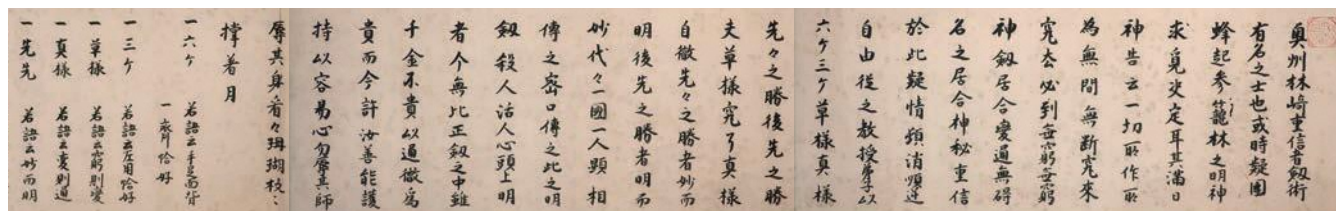
安政6年(1859)8月28日には折れたり破損したりした居合刀3振の修理と新調を藩に願い出ている。この願出は9月6日に早々と聞届けられ、10月には新規の居合刀2振が出来上がってきた。

また、居合刀を修理に出すとその間稽古で用いるものが不足する。こうした理由から文久3年(1863)にも居合刀の新調を役所に願い出ている。

このように松平周防守家の家臣として居合を教授した羽方家では、稽古道具の新調・修理にも役所への願出・許可という煩雑な手続きが必要であった。

3. 稽古料の補助を申請する。

他にも頭を悩ませたのが稽古料の問題だ。



No.1 羽方伴五右衛門正武から息子助之進正吉宛の居合極意書

安永 10 年 (1781) 正月

年不詳ながら羽方伴五右衛門の願出に対する藩からの
聞届書がある。その文面から察するに「今年は例年にも増
して数多く稽古しているため、通常の稽古料では行き届
かない。何卒通常の稽古料に加金していただきたい。」と
の願出であったようだ。伴五右衛門のこの願いは聞き届
けられ、この年に限り、通常の稽古料に金二分の補助金が
上乘せされた。

4. 門人へのご褒美を願い出る。

稽古道具の手配、稽古料の問題。羽方家では派生する雑
務もこなしながら門人たちを指導した。

稽古熱心で上達が目覚ましい者には、藩から褒美がもら
えるよう役所に願い出ている。加藤重郎兵衛の息子重太
郎もそのひとりである (No.2)。

「加藤重太郎は天保 13 年 (1842) の入門以来精進を重
ね、稽古日以外に組太刀 1 万回、居合 10 万回、都合 11 万
回を行い、上達著しいのでこの春、免許を相伝した。ゆく
ゆくは藩のお役に立つ人物であるので、格別の思し召し
を以って暮れには (御褒美の) 目録をいただきたい。…」

武芸の鍛錬を通じて弟子たちが一人前に育ってゆくの
は先生として無上の喜びであったに違いない。苦勞した
甲斐があったというものである。

5. 合間に相伝書を書く。

門人たちの技術が上達すると、師範はその階梯に応じ
た相伝書を授けていく。最初は入門編である序之巻、次は
目録、さらには極意書といったように。

嘉永三年戌十一月十日 加藤重太郎申立之下書 尤当暮申立致候処何之御沙汰も無之 候ニ付再度願出候	口上之覚 加藤重郎兵衛倅重太郎儀 当流江去ル寅年入門已来 別而心掛厚執行仕定式稽古 日之外仕組老万拔方拾万 余都合拾老万余数拔仕 亡父伴五右衛門已来類例無 御座余程上達仕候ニ付当 春免許相伝仕候往々御用立候人体ニ御座候得ハ 何卒格別之以 思召当暮達 御聴御目録被下置候ハバ 猶以相励出精仕当人者勿 論門弟取立之一助ニ茂相成 重々難有仕合奉存候此段 願之通 御聴届被成候様奉願候以上 十一月十日 羽方助之進
--	--

No.2 口上之覚 (加藤重太郎免許相伝に付目録下さる様願書)

羽方家文書の中には年月日、宛名が書かれていない相
伝書が何点か含まれている。また、相伝書の書き損じや
下書きなどもある。

これらの資料から考えられるのは、羽方氏が弟子の成
長を見越してあらかじめ相伝書を書き溜めておいたの
ではないかということだ (No.3)。

門人たちに毎日稽古をつけるのだけでもたいへんなの
に、役所にさまざまな申請書を提出し、その合間に相伝
書を書き溜める。居合師範羽方家の日常はかくのごとく
多忙である。



No.3 相伝書に用いられた印章・花押

6. 羽方家それから

こうした居合師範としての羽方家のくらは、明治維
新を迎えて大きく変わる。入門者の名を書き連ねた門人
帳も、版籍奉還が行われた明治 2 年 (1869) をもって途
絶えている。

江戸時代の武術師範のくらしを物語るこれらの貴重な
資料は、令和 2 年現在の御当主である羽方健氏のご厚意
により、松平周防守家ゆかりの地川越にある当博物館に
寄贈された。

(副館長 岡田 賢治)

令和3年度の博物館行事です(3月まで)

展示会・講座・教室 etc

●一般向け事業 開催日・講座名
 ○子ども向け事業 内容

4月	3月13日(土)～5月16日(日)「むかしの勉強・むかしの遊び」展  ○24日(土)子ども体験教室 昔の道具を使ってみよう
5月	「むかしの勉強・むかしの遊び」展 ～5月16日(日)→ ○29日(土)子ども体験教室 火おこし体験 
6月	 ○12日(土)子ども体験教室 ミニ縄文土器を作ろう
7月	17日(土)～東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けた記念特別展 霞ヶ関カンツリー倶楽部と発智庄平 ～川越にオリンピックがやってくるまで～ ○3日(土)子ども体験教室 七夕飾りを作ろう  ○24日(土)子ども体験教室 遊びの時間
8月	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けた記念特別展 霞ヶ関カンツリー倶楽部と発智庄平 ～川越にオリンピックがやってくるまで～ ○4日(水)5日(木)子ども体験教室 ミニ灯笼を作ろう 
9月	～5日(土)→ ●18日(土)大人体験教室 組紐体験
10月	16日(土)～令和3年度埼玉県名刀展 埼玉県刀剣保存協議会共催 ○23日(土)子ども体験教室 川越のまち歩きをしよう(仮)
11月	令和3年度埼玉県名刀展 埼玉県刀剣保存協議会共催 ～11月28日(日)→ ●11日(日)野外博物館教室 川越の街歩き(仮) ○20日(土)子ども体験教室 弓矢を作ろう
12月	○11日(土)子ども体験教室 たこ作りに挑戦
1月	 ○15日(土)子ども体験教室 まゆ玉飾りを作ろう 22日(土)～2月27日(日) 館蔵資料公開「川越城のうつわ」
2月	館蔵資料公開「川越城のうつわ」～27日(日)→ ●18日(土)大人体験教室 まが玉づくり体験 
3月	 ○5日(土)子ども体験教室 まが玉を作ろう ●24日(木)野外博物館教室 川越城跡を歩く 3月19日(土)～5月15日(日)「のぞいてみよう人々のくらしのうつりかわり」(仮) 展

※新型コロナウイルスの感染状況等により、事業が変更になる場合があります。詳しくはホームページにてご確認ください。

令和元年度 入館状況 博物館・川越城本丸御殿

博物館・川越城本丸御殿とも、令和元年度中に、多くの皆様にご来館いただき、誠にありがとうございました。今後も、より多くの方にご満足いただけるよう、常設展示・企画展示の充実を図っていきたく考えています。

※博物館・川越城本丸御殿は3月3日から新型コロナウイルス感染防止のため臨時休館。また、川越市蔵造り資料館は現在耐震化工事のため休館中。

施設区分	元年度入館者数				1日平均入館者数	開館日数
	一般	大学生・高校生	中学生以下	合計		
博物館	39,272	2,441	35,743	77,456	289	268
川越城本丸御殿	93,196	5,570	24,568	123,334	452	273
川越市蔵造り資料館	※耐震化工事のため休館中					

「むかしの勉強・むかしの遊び」展

会期 令和3年3月13日（土）～5月16日（日）

今年度も「むかしの勉強・むかしの遊び」展を実施いたします。
昭和 30～40 年代を中心とした教室・居間・駄菓子屋の店先を当館収蔵資料から再現しております。

今回は、昭和末期から平成初期にかけてのゲームの移り変わりがわかる資料や子どもたちが遊んだものも展示しております。

昨年展示と何がどのように変わったのか、ぜひご家族で違いを発見してみてください。



東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けた記念特別展

「霞ヶ関カンツリー倶楽部と発智庄平―川越にオリンピックがやってくるまで―」

会期 令和3年7月17日（土）～9月5日（日）

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催にあたり、川越市笠幡の「霞ヶ関カンツリー倶楽部」において、ゴルフ競技が行われます。この特別な機会を捉え、川越市立博物館では、昭和 4 年（1929）に完成した霞ヶ関カンツリー倶楽部の歩みと、土地提供など多くの支援を行った地元霞ヶ関村の発智庄平について、海外も含め、広く周知するために、特別展を開催いたします。

展示構成：

I 章 発智家と発智庄平

第 1 節 発智庄平と教育・社会事業

第 2 節 発智庄平とゴルフの出会い

II 章 霞ヶ関カンツリー倶楽部と発智庄平

第 1 節 霞ヶ関カンツリー倶楽部の誕生

第 2 節 霞ヶ関カンツリー倶楽部の歩み

III 章 オリンピックと川越

第 1 節 オリンピックの記憶

第 2 節 東京 2020 大会と川越



マッシー&パター



発智庄平



1964年 東京オリンピック記念コイン

利 用 の 御 案 内

◆入館料

区 分	博物館	川越城 本丸御殿	川越市 蔵造り 資料館	共通入館（観覧）券		
				●博物館 ●美術館	●博物館 ●本丸御殿 ●美術館	●博物館 ●本丸御殿 ●美術館 ●まつり会館
一 般	200円 (160円)	100円 (80円)	休館中	300円	370円	600円
大学生 高校生	100円 (80円)	50円 (40円)	休館中	150円	180円	400円

※（ ）内料金は、団体〔20名以上、1名につき〕の場合

◆開館時間 午前 9 時から午後 5 時まで（ただし入館は午後 4 時 30 分まで）

◆休 館 日 月曜日（休日の場合は翌日の火曜日）

第 4 金曜日（休日を除く）年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）

館内消毒（6 月下旬）

*開館時間・休館日は、博物館・川越城本丸御殿とも原則として同じ

（館内消毒は博物館のみ休館）

*蔵造り資料館は、休館中です。

◆交通案内

東武東上線・JR川越線 川越駅より

または西武新宿線 本川越駅より、

●東武バスにて「蔵のまち経由」乗車札の辻バス停下車徒歩 10 分、または「小江戸名所めぐり」乗車博物館前バス停下車すぐ

●イーグルバスにて「小江戸巡回バス」乗車博物館・美術館前バス停下車すぐ

※ご来館の際は、なるべく電車、バスをご利用ください。



発行日◆令和3年3月30日

〒350-0053 川越市郭町 2 丁目 30 番地 1

Eメール hakubutsukan@city.kawagoe.saitama.jp

発行◆川越市立博物館

TEL 049-222-5399

FAX 049-222-5396

ホームページ 川越市役所ホームページ内